

令和4年度第1回総合教育会議 会議録

1. 開催日時 令和4年8月22日(月) 15:30～16:45

2. 開催場所 西条市庁舎本館5階502会議室

3. 出席者 【構成員】

西条市長 玉井 敏久

教育長 伊藤 隆志

教育長職務代理者 福田 亜弓

委員 磯 恒子

委員 鳳 慶洲

委員 一色 一成

【構成員以外】

経営戦略部長 高橋 雄次

市民生活部長 曾我部 道昌

教育委員会事務局長 三好 昭彦

教育指導監 松本 卓也

市民生活部副部長兼市民協働推進課長 渡邊 英俊

人権擁護課長 安倍 和紀

教育委員会事務局副局長兼教育総務課長 串部 佳隆

教育総務課主幹 村上 彰彦

社会教育課長 前谷 浩教

学校教育課長 戸田 章裕

学校教育課指導主幹 黒河 幸彦

学校教育課指導主幹 内田 賢一郎

【事務局】

経営戦略部副部長兼秘書課長 大西 保彦

政策企画課長 菅 裕臣

政策企画課政策企画係長 石水 好幸

政策企画課政策企画係副主査 篠原 彩

4. 市長挨拶

本日はお集まりいただきありがとうございます。まずコロナ関連について、連日の報道のとおり、一日あたり200人以上の規模で感染者が確認されており、本市も医療崩壊の一步手前まできている。市民の生命・財産を守ることが我々の責務であるので、本当に必要なところに行き当たらないという状況は何としても避けたいと考えている。

あと10日ほどで2学期が始まるが、児童、特に小学6年生にとっては小学校最後のイベン

トを控える中、コロナの影響で延期・縮小してしまうと、頑張ったことを発表する場が失われてしまう。学校だけでなく、家庭内でも今一度感染対策・感染回避行動を徹底していただき、2学期からは感染者数0でスタートできればと願う。

また、最近新聞等を賑わせている県立高校の再編問題だが、記事を読んでいると、卒業生の立場、親の立場、子どもたちの立場、それぞれの立場で捉え方が違うのではないかと感じている。子どもたちの数が減ってきているのは事実であるが、そういった中で子どもたちや親が求める教育とは何か、改めて考える必要があるように感じる。

本会議のテーマにもなっている学校規模の適正化については、令和2年度に一度アンケート調査を行っている。子どもたちの声がある限りは学校の統廃合はしない、その気持ちで今日まで歩んできたが、子どもの教育環境を考えていく上でそれが本当に正しいのか、思うところもある。地域のエゴにならないように、また、行政の考えだけで進んでいくことのないようにしていきたい。

教育委員会にはしっかりリーダーシップを発揮してもらい、市長部局も一緒になって協力しながらやっていきたいと考えている。今回は方向性を決めていく大切な会となるので、教育委員の皆さまにおいては、様々な立場から忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

5. 報告

(1) 西条市における持続可能な開発のための教育（ESD）推進の進捗について

【教育委員会指導主幹から説明】

一色委員 各学校がESDに取り組む理由についてお聞かせ願いたい。テーマとねらいの深さが各学校でバラバラであるように感じる。西条市教育委員会として持っていきたい方向性があればお聞きしたい。

指導主幹 ゴールを描いたものがSDGsであり、その目標を達成するための方法がESDであると考えている。ESDという言葉は、現状では、そこまで各学校に浸透していない。学校行事や生徒会活動、総合的な学習の時間など、各学校独自で取り組むことをESDの視点で見直し、考え方を広めていくことが大切になる。まだまだ不十分なところもあり、理解を深めている学校とそうでない学校で差が出てしまっているのが現状である。

一色委員 持続可能な開発ということで、単発で終わるものではない。各学校が継続的に取り組みを進めることで特色が生まれ、それがSDGsにもつながっていくのではないかなと思う。ESDに取り組むことによってこんな波及効果がある、といった大きい枠組みが示されれば、各学校側もESDに取り組む意義がみえてくるのではないかな。

礒委員 本腰を入れてやろうとすると、学校側に費用が発生することがある。例えば、講師を呼ぶための謝礼がいる等。そのあたり、学校へのサポートはあるのか。

指導主幹 講師招聘の際は市の予算から支出できるようになっている。県外講師や特別な方を招聘する際は予算的に難しいかもしれないが、各学校と相談しながら進めていきたい。

学校教育課長 現時点では ESD という位置づけでの予算化はできていない。しかし、学校・地域・家庭連携事業というものがあり、この事業は予算化している。本事業では、地域の皆さんのご協力を得ながら、総合的な学習の時間を活用して様々な授業を行っているので、必要に応じて相談いただきたい。

礒委員 学校で ESD を進めていく以上、評価をしていく必要がある。どのように評価していくことが望ましいのか。

指導主幹 現時点では、教育委員会から評価の仕方について示してはいない。基本的には、総合的な学習の時間に置き換え、それに対しての総合評価になると考えている。

市長 ESD のテーマ・ねらいを決めて実施していく以上、達成の尺度は図っていききたいと思う。学校間で大きく差が出ないように、一定の進捗管理は必要である。スタートの段階でねらいや方向性をしっかり固めておけば、そこから達成・評価につながっていくのではないかと思うので、皆さんのご意見を伺い、まずはストーリーをしっかりとイメージすることが大切ではないかと感じる。

鳳委員 該当学年は高学年が多いように思うが、それ以外の学年も高学年と同じテーマ・ねらいで実施しているのか。

指導主幹 小規模学校については、全学年同じテーマで実施しているが、一般的には学年ごとにテーマとねらいを決めて実施している。本日の資料は各学校の取組みをピックアップして記載している。

福田委員 この学習を進めるには、地域の協力が不可欠である。今後、学校と地域を結ぶコミュニティスクールの実現に向け、これは非常に大切な取組みだと思う。

教育長 大切なのは、ESD で目指している持続可能な社会づくりであり、多様性・相互性・有限性・公平性・連携性・責任制の 6 つの視点から考えていくものである。19 番の楠河小学校、20 番の庄内小学校、21 番の丹原小学校は、それぞれ地域特性に応じて“環境”を切り口にテーマとねらいを設定しており、こういった学習を通じて、子どもたちに“他者と協力する力”や“進んで参加する態度”といった、ESD の学習指導で重視されている 7 つの能力が身につくのではないかと思う。今後、学校からの報告を注視し、先程も例として出した楠河小・庄内小・丹原小にどのような成果があったか等、評価についてももしっかり精査をしていかなければならないと感じてい

る。

6. 協議

(1) 西条市の学校規模適正化に関するアンケート調査の実施について

【経営戦略部長から説明】

福田委員 保護者の立場として、実際にアンケートを回答してみると、「問 8 小学校では、1 学年あたりどの程度の学級数が適切だと思いますか。」の設問が少し回答しづらく感じた。例えば、○学級以上や○～○学級のように、選択肢に幅を持たせた形にしてもらえると回答しやすいのではないかと。

市長 西条市は一番多い学級でどの程度あるか。

教育指導監 市内では神拝小学校の 1～4 年生の 4 学級が最大である。

福田委員 市内で 2 学級の学校がいくつあるのか、3 学級の学校がいくつあるのか、全体的なことはわからない。結局、回答する皆さんがこれまでに経験してきた学級数、子どもが通学する学校の学級数を基準にして考えると思う。私であれば 2 学級もしくは 3 学級がいいかと考えるが、どちらかひとつに絞るのは少し難しく感じた。

一色委員 私も同意見。人は経験した範囲でしか答えることができないため、この設問の学級数の選択については、ねらいが分かりにくい。また、小学校区を選択するようになっているが、単純に考えると学級数の多いエリアの意見が反映されやすいように感じるが、そのあたりのケアは考えられているか。さらに、アンケート冒頭にある目的に「幸福度」とあるが、これには定義があるのか。

鳳委員 先程、一色委員からもあったが、人数が多い大規模校の意見が反映されやすくなるので、小規模校の意見も反映できるよう工夫してほしい。

政策企画課長 問 3 で小学校区を選択いただくので、こちらのデータを活用しながら、小規模校の意見が反映されないという結果にならないよう配慮する。

経営戦略部長 学級数等についても、貴重なご意見をいただいたので、持ち帰り再考させていただきたい。

一色委員 現状では、校区内の学校に通学するというルールがある。学校がそれぞれ個性を出していく中で、こんなことをしている学校に行きたい、というような校区外通学を希望する方がどの程度いるのか、アンケートで聞いてみるいい機会ではないかと思う。

経営戦略部長 設問に加えるかどうか含め、改めて検討させていただく。

市長 全ての学校を3クラス以上にするというように、学校を一律に揃えていくつもりはない。地域ごとに特色のある学校があつていいと思っている。

議委員 教員用のアンケート(小学校)については、問3の勤務する小学校を回答すると、学校規模によっては個人が特定されてしまう。嫌がる先生がいるのではないかな。

経営戦略部長 アンケートの回答については、回答者個人を特定する意図はない。
タウンミーティングでは、地域から今後の小学校や中学校について要望が出ており、神戸校区のように具体的に検討に入っている地域もある。今後の検討材料とするためには、校区ごとの分析が必要となる。

一色委員 選択肢の範囲を広げて、小学校区単位ではなく、中学校校区単位で選択させてはどうか。

市長 タウンミーティングでも様々な意見をいただくが、地域の望む意見と実際の保護者が望む意見は少し違っていることもある。例えば、中学校の保護者からは、今の地域では人数が少なくて思うように部活動ができないので、まち(中心部)の学校に通わせることができるならそうしたい、という意見もいただく。こういうことから、中学校校区でアンケートをとってしまうと、小学校単位での貴重な意見が聞こえなくなってしまう。

一色委員 そう考えると、これはかなり重要なアンケートになってくと思う。保護者にも、このアンケートの目的と重要性をきちんと理解して回答いただくようにしてほしい。

市長 今が分岐点になると考えている。県立高校の再編関係もあることから、ちょうど熱を帯びてきているところ。地域の皆さんに真剣に考えていただける機会になると考えている。

教育長 まずは未来ある子どものことを一番に考えてあげたい。地域の意見との兼ね合いもありおそらく長い年月がかかると思うが、丁寧にしっかり話をしていくことが大切。学校環境については、ある程度集団も必要になると思うが、子どもによっては大きなところや集団が苦手な子もいる。平成22年、田滝小学校はどの校区からでも通えるようになったので、これは継続していけたらと思っている。

市長 学校側の意見、教育委員の皆さんの意見も反映しながら、アンケートを調整していきたいと思う。

教育指導監 先程教育長が話したことが非常に重要だと感じている。学校のことを決める際は、それに付随するたくさんの組織に意見聴取する必要がある、慎重に進めていかなくてはいけない。まずは、皆さんの意見をどれだけ集められるかが一番大切だと思っているので、このアンケートを見たとき、内容についても良く考えられていると感心した。また、教員として思いを伝えられる機会をいただけるのは非常に有難い。

市長 市長部局として教育分野を熟知していない部分も多く、専門性の観点からみても、市長部局はかなわないところが多いので、ぜひ今後も教育委員会と市長部局の連携をお願いできればと思う。やはり教育に関するところになるので、私としては教育委員会にリーダーシップを発揮していただきたい。

福田委員 学校の適正規模や適正配置ということで、児童生徒のより良い教育環境や学習環境、人間関係の構築などから、望ましい学校の姿を考える良いきっかけとなったように思う。西条市の基本理念の中の、豊かな心を育む教育文化を実践できるまちを目指していくということから、「みんなで実現しよう」ということで今回皆さんと非常に大切な話ができたと感じている。将来を見据えた持続可能な教育の在り方を模索する中で、西条市の教育について向き合うべき問を考えさせられたと感じている。

そして、コロナ禍により情報化社会がさらに加速する中で、IT、ICT教育に関して西条市がどう向き合っていくのかを考えるきっかけにしてほしい。ICT教育について、先生方が非常に熱心に取り組んでおられることに感謝申し上げたいのだが、子どもの機器活用をフォローする人材が必要ではないかと、学校現場の訪問を通じて感じた。今学んでいる子どもたちにより良い学習環境が提供できるようにしてもらいたい。

市長 昨今の教育環境は、これまでから激変かつ高度化しており、思考回路が昔のままではいけない。何を軸に置くかという、子どもの教育環境や教える先生方であると思う。担当する先生によってその科目が好きになる子どももいる。それはその人の心、魂があるからだと思う。環境が大きく変わってきた今のタイミングで、今一度見つめ直す必要があると感じている。門切り型を追い求めるのではなく、西条らしさを追い求め、子どもたちのこと、先生方のことを考えながらオール西条で進めていかなければならない、そう考えている。